

ストロップ!住宅火災!!

ZOOM UP

建物火災が急増し、4名の尊い命が失われました。これ以上の犠牲を生まないために

近年、火災の発生件数は全国的に増加傾向にあり、千歳市においても例外ではありません。特に今年度は、住宅などの建物火災が急増している。市民の皆さん一人ひとりが火災に対する意識を改めて強く持つ必要があります。

いのちを守る
10の
ポイント

4つの習慣

- 1 寝たばこは絶対しないさせない
- 2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- 3 こんろを使うときは火のそばを離れない
- 4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

6つの対策

- 5 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろなどは安全装置の付いた機器を使用する
- 6 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- 7 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する
- 8 火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておく
- 9 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
- 10 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

住宅用火災警報器を設置していたことで大事に至らなかった例

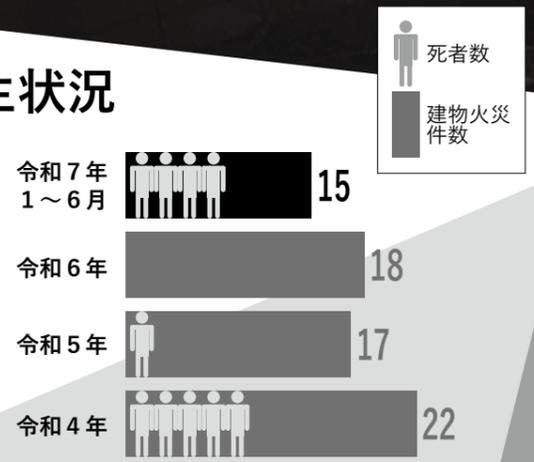
事例1 ガステーブルの消し忘れ
共同住宅の台所に設置しているガステーブルのグリルで魚を焼き終え、グリルの火を消さずに食事をしていたところ、グリル皿に残っていた魚などの燃えカスから発煙。台所に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動し、火災に至らなかった。

事例2 ろうそくの火の消し忘れ
寝室にある仏壇のろうそくに火をつけ、線香を炊いて就寝し、目が覚めると住宅用火災警報器が鳴動していた。仏壇を見ると炎が上がっていたことから、洗面器に水を汲み、消火した。

事例3 密閉式石油ストーブの故障による不完全燃焼
就寝中、住宅用火災警報器の鳴動により目を覚ましたところ、部屋全体が白い煙で覆われていた。暖房設備(密閉式石油ストーブ)のファンが動いておらず違和感を感じたので、コンセントを抜きストーブを停止させた後、119番通報した。

令和7年の火災発生状況

市内では、令和7年6月末現在で火災発生件数が20件に達しています。その内訳は住宅火災を含む建物火災が15件、林野火災1件、車両火災1件、その他火災3件です。建物火災の主な原因は、「こんろ」、「ボイラー」、「煙突・煙道」、「たばこ」。火災件数は昨年同時期と比較して8件も増加していることから、年間件数が例年を大きく上回る可能性があり、さらに尊い命が失われる危険性も否定できません。



「火災特別警戒」実施中!

消防本部では、住宅火災の急増を受けて6月20日から8月31日までを「火災特別警戒」として、消防関係団体などと協力し、火災予防の取り組みを一層強化しています。この期間中は、住宅地域への巡回啓発活動や防火講話、住宅用火災警報器の設置・点検の呼びかけなどを集中的に行っています。

現在、火災による死者が発生した案件については、消防および関係機関が原因究明のための調査を進めています。この不始末が関係している事例も含まれており、こうした原因は、ほんの少しの注意や習慣の見直しで防げるものです。火災は「自分の家は大丈夫」と思っているときにこそ起こりうるものですが、吸ったあとに消火を忘れてしまった「コンロの火をつけ

「自分の家は大丈夫」と思っているときにこそ火災は起こりうる

千歳市消防本部 予防課長 安澤 淳一